

同点は同質か？

右上の回数（デジタル表示）が○●●●●●●●と7ビットが●になりめでたく折り返し地点第127回となりました。全部●になるまであと128回かかりますが頑張りたいと思っています。本誌の読者にとってこの評価の話は少し場違いに思われるかも知れませんが、楽器や音楽を商品とされていてもその対象である人間をもう少し詳しく知っておいた方が役に立つと思いますので見方を変えてお付き合い下さい。

前号で音楽のいわば分子・原子レベルでの分類を紹介しましたが、音響的言い換えれば物理的現象として説明のつく対象を人間は心理的に情報変換するわけです。その情報変換能力を形成するいわば「メタ音感」とも言える能力はマーセル（前出）によれば①識別力②洞察力③音楽的意識④自発力⑤知識⑥技術に分類できます。（マーセルは⑤と⑥を一つにしています）

例えば「音程」に関する能力をこの方法で分類すると

- ①音程を形成する音を感知する
- ②ある音と他の音の関係が言える
- ③その音程の音楽的意味がわかる
- ④意図的に音程を操作できる
- ⑤音程の種類と機能がわかる
- ⑥正しく音程を把握し表現する。

というような行動目標で表現できます。これはさらに楽曲や教材レベルに落とすともっと具体的に何小節目の何拍目というところまで具体的にになります。私はかつてこの考え方ですべての評価項目（約50項目以上）を表にしたことがあります。

評価項目 （音楽的要素）	(1) 識別 力	(2) 洞察 力	(3) 音楽的 意識 （メタ音感）	(4) 自 発 力	(5) 知 識	(6) 技 術
A 音 程	音程のちがいをわかる	ある音と他の音の関係を言える	どんな音程的関係に属しているかを認識する	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
B 主 音	主音と無関係である	主音とそうでない音の関係を言える	主音をもとに音程を形成する	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
C 音 階	音階の音と主音	音階の音と主音の関係を言える	主音をもとに音程を形成する	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
D 調 性	調性・音階	調性・音階の関係を言える	調性・音階の関係を言える	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
E 協 和 音 程	協和・不協和	協和・不協和の関係を言える	協和・不協和の関係を言える	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
F 和 音	和音の音と主音	和音の音と主音の関係を言える	和音の音と主音の関係を言える	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
G 和 音	和音の音と主音	和音の音と主音の関係を言える	和音の音と主音の関係を言える	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
H 和 音	和音の音と主音	和音の音と主音の関係を言える	和音の音と主音の関係を言える	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
I 分 割・連 続	分割・連続の関係を言える	分割・連続の関係を言える	分割・連続の関係を言える	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
J 速 度	速さのちがいをわかる	速さのちがいをわかる	速さのちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
K 強 弱	強弱のちがいをわかる	強弱のちがいをわかる	強弱のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
L 拍 子	拍子のちがいをわかる	拍子のちがいをわかる	拍子のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
M スベクトラム	スベクトラムのちがいをわかる	スベクトラムのちがいをわかる	スベクトラムのちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
N エンベロープ	エンベロープのちがいをわかる	エンベロープのちがいをわかる	エンベロープのちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
O 変 調	変調のちがいをわかる	変調のちがいをわかる	変調のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
P 音 域	音域のちがいをわかる	音域のちがいをわかる	音域のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
Q 記 譜 法	記譜法のちがいをわかる	記譜法のちがいをわかる	記譜法のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
R 録 音 法	録音法のちがいをわかる	録音法のちがいをわかる	録音法のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
S コードネーム	コードネームのちがいをわかる	コードネームのちがいをわかる	コードネームのちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
T 転 調 型	転調型のちがいをわかる	転調型のちがいをわかる	転調型のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
U 楽 隊 形	楽隊形のちがいをわかる	楽隊形のちがいをわかる	楽隊形のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する
V 主 題	主題のちがいをわかる	主題のちがいをわかる	主題のちがいをわかる	意図的に音程を操作できる	音程の種類と機能がわかる	正しい音程を把握し表現する

評価に際してはそれぞれのマトリクスを○や×または点数で埋めることで生徒のプロフィールを完成させてゆきま

した。まだコンピュータが手元に無かった70年代にはパンチカードというシステムでこれを実施しました。80年代になりマークカード入力とパソコン処理で精密な評価に近づけました。

このマトリクス表は左端の縦の項目がA-ZZまでの評価項目です。そして例えば【和音の種類と機能を説明できる】という項目は和音（G）の知識（5）で【G-5】というコードで記録されます。問題はこれらの項目をどのように記録として書き込むかですが、いわゆるペーパーテスト以外に実技テストや観察法などが一般的ですが、直接教師が介在しないでコンピュータに入力できるアンケート形式のホームページなども利用できます。ゼミの学生の修士論文のためのアンケート調査でこのホームページ方式を採用したことがあります。電子メールの形で回収されるアンケート結果はそのままコピー&ペーストでエクセルに貼り込むことができ、手入力より正確に早く処理できました。

80桁のコラムを持つマークカードを使う場合は最初の5桁を生徒のID識別に用い、その後ろの75桁を回答欄とすることができました。ペーパーテストの回答を最大75問まで設定でき、採点と事後処理を毎秒5名程度こなして終了したときは返却用の印刷物の印刷も始まっています。その印刷物にはどの問題で何と答えたかを例の【A-1】から【ZZ-6】までのマトリクスに置き換えたコメントとして個々の生徒に【調号と調性の関係をよく理解しているが、それをコードネームに置き換える練習が不足している】等のコメントに変換して点数とともに返却します。教師側の資料としてS-P表（正答率の高い問題から正答率の高い生徒の順に並び替えた表）などで出題の妥当性の検討や個人のプロフィールの作成が行われます。私はこの方法で同点の生徒でも正答した箇所や誤答した箇所の違いから同質ではないと判断する材料を多く手にすることができました。

この国では多くの子どもが同点の場合は同質として画一的なふるいにかけられて大雑把に扱われています。今ならエクセルから各種のグラフィカルなプロファイルを瞬時に作成できますし、ファイルメーカーのようなカード型データファイルと連動させれば正確な評価の助けになるでしょう。

子どもたちの大好きな先生は【自分のことをよく理解してくれる】【教え方のうまい】先生ですから、ただ【面白い】とか【かっこいい】【熱心な】だけの先生では無いのです。この親の次か親以上に自分を正しく理解してくれる先生には絶対の信頼が生まれ円滑な師弟関係が成立します。

